

IFRS news

財務諸表への重要性の適用に関する 実務記述書案

November 2015

国際会計基準審議会 (IASB) が開示に関する取組みの一環として公表した新しい公開草案について、PwC アカウンティング・コンサルティング・サービス・グループの Madhuri Ravi Srinivasan が詳しく説明します。

IASB は、現在進行中の開示に関する取組みのプロジェクトの一環として、重要性の適用についての実務記述書に関する公開草案を公表しました。しかし、本公開草案は、開示原則プロジェクトにかかるディスカッション・ペーパーで取り上げられる予定の重要性の定義は扱っていません。

実務記述書であり、基準ではない

本実務記述書案は、提案された実務記述書案としては2つ目となります。公表された1件目の実務記述書は、「経営者による説明」を扱っています。実務記述書は、国際財務報告基準 (IFRS) の権威ある会計基準を構成するものではありませんが、完全なデュープロセスの対象となります。しかし各法域は、本実務記述書を各国の財務報告フレームワークの強制力のある一部とするかどうかを選択できます。

提案

本公開草案は、IFRS に基づき一般目的財務諸表を作成する際の重要性の概念の適用において経営者の助けとなることを意図しています。

本公開草案には以下のガイダンスが含まれます。

- 重要性の特性
- 財務諸表における情報の表示および開示に関する決定を行う際の重要性の概念の適用方法
- 情報の脱漏 および誤表示が財務諸表において重要性があるかどうかを評価する方法

本公開草案は、「浸透度 (pervasiveness)」を含む重要性の特徴、重要性を評価する際の利用の必要性、定性的要素および定量的要素の検討、および個別評価または集成的評価について詳しく示しています。また本公開草案は、経営者が財務諸表における表示および開示を考慮する際に重要性の評価の背景を理解することの重要性について述べています。

本公開草案では、一般目的財務諸表の様々な利用者のニーズおよびそれらの特徴について述べています。その内容は、主に、概念フレームワークに含まれるガイダンスに基づいています。

また本公開草案では、基本財務諸表および注記における情報量が適切なレベルとなるように、財務諸表作成者は、バランスを取る必要があることを示唆しています。

最後に、本公開草案は誤表示にも対応しています。例えば、当期および過年度の両方に関して識別された誤表示、およびそうした誤表示に対して経営者に期待される対応などを扱っています。

次のステップ

本公開草案に対するコメント募集期間は2016年2月26日までです。

本実務記述書案は重要性の定義を変更するものではなく、また新しい概念を導入するものでもありませんが、財務諸表作成者においては、本提案について検討し、[IASBのコメント募集](#)に対してコメントを提出することが推奨されます。